



深谷大上ふれあいの家の「火曜喫茶店」で 小椋さん(1区)の水彩画による絵画展を開く

6月24日(火)の「火曜喫茶店」の企画展は、大上1区在住で現在90歳の小椋くわ子さんの“絵画展”が催された。

今回の展示は、「人物展」「風景展」に継ぎ第三回目にあたり、水彩画30点を展示された。小椋さんは50歳の時に「想いや感動を絵に残したい、人生を争いなく豊かに過ごしたい。」との思いから絵を描き始め、今も意欲的に制作に取り組んでいます。

当日は雷雨にもかかわらず40名の見学者があり、みごとな情景描写と作者の人柄などの話題で賑わっていました。



50歳から始めたという小椋さんの作品が並び

次回の企画展は、7月29日(火)の健康シリーズ第3弾の“誰でも作れる簡単料理”の講習会です。

北の台小の3年生が今年も“くす玉作り”に挑戦

北の台小学校の3年生(74名)は、今年も地域の皆さんとの交流を図る授業の一環として6月25日(水)に“くす玉作り”に挑戦した。

くす玉作りは、平成23年から3年生の授業に取り入れられているもので、当日は午前10時45分からの3校時と4校時を使い、大上1区の中鉢さんが代表のさくら会のメンバー7名と、大上地区社協の市ノ澤会長以下6名の13名が学校を訪ねて3クラスに分かれて指導に当たった。

くす玉は、折紙5枚の花びらを1花とし、12花でくす玉に仕上げるもので、1班5名が協力して1つのくす玉に仕上げるというもの。児童たちは、指導を受けながら真剣に折紙を折ってくす玉を完成させ、更に短冊に願いを書いて地区社協の皆さんが準備して教室に飾った竹竿にくす玉と共に吊るしていた。

西木校長も3クラスの授業を見て回られ、熱心にくす玉作りをしている児童たちに声を掛けていました。各クラスでは出来上がったくす玉を囲んで班ごとに記念写真に収まったり、先生が「教えて頂いた方々へお礼を言いたい人はいますか?」との質問に、手を挙げて1人1人がしっかりお礼の挨拶をしていました。最後に、参加した皆さんは教室で児童と昼食を共にしながら親睦を深めていました。



西木校長も授業を見て回られた



くす玉を作る左から 1組、2組、3組の児童の皆さん